

スポーツビジネスとしての男子プロゴルフの発展的課題に関する研究  
～トーナメントマネジメントに着目して～  
A study on developmental subjects of Japanese men's pro-golf  
: Focus on management of tournaments

1K07B136-5

指導教員 主査 原田宗彦 先生

玉川 隆

副査 松岡宏高 先生

【緒言】

近年、石川遼を中心とした若い選手の活躍により、1990 年代以降陰りを見せていた男子プロゴルフの人氣は回復しつつあり、スター選手の登場により男子ゴルフ界全体に好循環が起り始めている。しかしながら年間の観客動員数、視聴率共に上昇傾向にあるにも関わらず、日本ツアーの試合数にはその効果が全く見られない。「日本ツアーの試合構築システムは、殆どが 1 社冠スポンサーであり、・・・中略・・・、1 社冠スポンサーのトーナメント構築、運営スタイルの問題点として、冠スポンサー企業の撤退によって、トーナメントの即中止、試合消滅につながる危険性が挙げられる。」と小山（2008）が指摘している。つまりトーナメントの多くが冠スポンサーへの依存度が非常に高いトーナメント運営を行っているため、経済界の影響を受けやすいことが原因となっている現状があると言える。男子ゴルフ界のさらなる活性化のためには、トーナメント運営に関わるステークホルダーが課題や問題意識を共有し、発展を目指す必要があると筆者は考える。

【目的・方法】

本研究では、ツアートーナメント運営の構造の現状把握を行い、課題を明らかにする共に、それに対しステークホルダーが共通の問題意識を持って課題解決に向け取り組んでいるか、を検証することを目的とした。そのため研究方法として日本男子ゴルフ界に関わる 4 つのステークホルダーに対しインタビュー調査を用いることとした。

【結果・考察】

歴史的背景、現状の運営構造から以下の 3 点の課題を挙げた。

- ① 1 社冠スポンサー型のトーナメントに依存し、景気に左右されやすい運営構造
- ② 放映権が発生せず、トーナメントの収益ではなく負担となっている現状
- ③ JGTO が協会としてのイニシアティブを取れていない現状

課題に対し各ステークホルダーの認識が異なる部

分も多かったが、改善施策に関して共通の認識をしていた。ゴルフ自体の大衆化が十分ではないと捉え、各々が施策を練っているのが現状であり、ゴルフ界全体を良い方向に持っていけばコンテンツとしてのゴルフの魅力が上がり、課題は解決されるという共通の認識を持っていることが分かった。さらにそれらの課題解決のために、ゴルフ界全体で課題に取り組む必要性をどのステークホルダーも指摘していた。しかし同時に、現在でもそういった協力体制が確立されていないのが現状であることも明確になった。長期的なスパンで考え、協力体制を整えることができたならば、その発展を持続させることができる、というのが日本男子ゴルフ界を取り巻く共通意識であった。

【結論】

やはり石川遼ら若手選手の台頭は大きく、そして彼ら以外にもジュニア界にはまだまだ逸材が眠っていることも分かった。今後彼らが台頭することによって、男子ゴルフはさらに活性化を見せていく可能性が十分にあることが考えられる。またプロゴルフの価値を高めるためにはさらなる認知・普及が必要であることが指摘された。しかしゴルフを始める若い女性が増えてきたことや、石川遼効果により子どもの世代にも浸透し始めている。つまりその裾野は広がり始め、ゴルフ界はその後押しをする努力が必要とされていると言えるだろう。また、ゴルフが人々にとって魅力的なコンテンツになりきれていないという指摘が多くあったが、筆者はそれは時間が解決するだろうと考えている。当然ゴルフ界全体で協力体制を取り、努力が必要ではあるが、その必要性をゴルフ界が感じ取っている現状が本研究で明らかにされた。つまりきっかけとなる出来事さえあれば、その協力体制は容易く取ることができ、ゴルフのさらなる認知・普及を目的とした施策を打つことができる。裾野が広がったことによりゴルフのコンテンツとしての価値が向上し、運営構造、放映権などの課題も好転することにつながっていくのではないかと筆者は考える。